

磐城時報

日刊 第八日
編輯者 岩城新聞社
印刷所 岩城新聞社
發行所 岩城新聞社
電話 二二二二
郵便 二二二二
定額 一月三圓
半年六圓
一年十圓
廣告料 行字 一ヶ月 五十銭
日刊 (日曜、祭日) 休刊

色川問題の

調停委員決定

佐々木、萩原、坂本、野崎四氏
町會閉會後協議會

(昨報)さしも紛糾を極めた色川町のデマが飛んで其の真相を火力製材所問題も昨十七日の續捕提するに難いが、井上、色川行町會に於いて佐々木氏の動議 佐藤三氏の收容にまで進展したによつて建議案提出の馬目(武)のは某氏一派の策謀奏効した馬目(雅)兩氏も到底勝算なしとの観られる。

四倉町町會

明十五日日から

四倉町の初町會は十九日午前九時より開會するが協議案は左の如くである。

- 一、道路占用規程改正の件
- 二、匡救農業土木事業田戸溜池用土地買収の件

平三小學校の 兒童貯金激增

總額三万五千四百余圓

平町における第一、第二、第三各小學校では去月來校内兒童の學校貯金状態を調査したが總額三萬五千四百四十三圓三十四錢で一人當り平均八圓七十六錢の高額に上つてゐる。		
▲第一校	人	圓
第一一年	三六	三〇〇.六
第一二年	二五	一七〇.二
第一三年	一五	一〇〇.〇
第一四年	一〇	七〇.〇
第一五年	五	三〇.〇
第一六年	三	二〇.〇
第一七年	二	一〇.〇
第一八年	一	五.〇
第一十九年	一	五.〇
第二十一年	一	五.〇
第二二年	一	五.〇
第二三年	一	五.〇
第二四年	一	五.〇
第二五年	一	五.〇
第二六年	一	五.〇
第二七年	一	五.〇
第二八年	一	五.〇
第二九年	一	五.〇
第三〇年	一	五.〇
第三一年	一	五.〇
第三二年	一	五.〇
第三三年	一	五.〇
第三四年	一	五.〇
第三五年	一	五.〇
第三六年	一	五.〇
第三七年	一	五.〇
第三八年	一	五.〇
第三九年	一	五.〇
第四〇年	一	五.〇
第四一年	一	五.〇
第四二年	一	五.〇
第四三年	一	五.〇
第四四年	一	五.〇
第四五年	一	五.〇
第四六年	一	五.〇
第四七年	一	五.〇
第四八年	一	五.〇
第四九年	一	五.〇
第五〇年	一	五.〇
第五一年	一	五.〇
第五二年	一	五.〇
第五三年	一	五.〇
第五四年	一	五.〇
第五五年	一	五.〇
第五六年	一	五.〇
第五七年	一	五.〇
第五八年	一	五.〇
第五九年	一	五.〇
第六〇年	一	五.〇
第六一年	一	五.〇
第六二年	一	五.〇
第六三年	一	五.〇
第六四年	一	五.〇
第六五年	一	五.〇
第六六年	一	五.〇
第六七年	一	五.〇
第六八年	一	五.〇
第六九年	一	五.〇
第七〇年	一	五.〇
第七一年	一	五.〇
第七二年	一	五.〇
第七三年	一	五.〇
第七四年	一	五.〇
第七五年	一	五.〇
第七六年	一	五.〇
第七七年	一	五.〇
第七八年	一	五.〇
第七九年	一	五.〇
第八〇年	一	五.〇
第八一年	一	五.〇
第八二年	一	五.〇
第八三年	一	五.〇
第八四年	一	五.〇
第八五年	一	五.〇
第八六年	一	五.〇
第八七年	一	五.〇
第八八年	一	五.〇
第八九年	一	五.〇
第九〇年	一	五.〇
第九一年	一	五.〇
第九二年	一	五.〇
第九三年	一	五.〇
第九四年	一	五.〇
第九五年	一	五.〇
第九六年	一	五.〇
第九七年	一	五.〇
第九八年	一	五.〇
第九九年	一	五.〇
第一〇〇年	一	五.〇

四倉鶏鳴會 役員改選

四倉町鶏鳴會第二十一回例會は十六日午後七時より同町青年會館に於て開催したが會長、副會長及び幹事八名任期満了の爲改選を行つた結果左の如く決定した。

- 會長 重任 青木公九、副會長 新妻 熊男、任期満了に付後任は幹事 中より選任の事として幹事は左の如し
- 幹事 相澤源吉、和田民藏、新妻熊男、森謙治、長谷川徳次、中島鹿之助、松崎徳茂、菅波勇、諸氏である

大浦村人事

大浦村役場調査による去る十二月中の出生、死亡、婚姻等左の如し

- 出生男子十一人、女子六人、計十七人、死亡男子一人、女子三人、計四人、婚姻七組

四倉町方面委員會が 社會事業助成會を設置

第一着手として舊歲末の細民救済

四倉町では今十八日午前九時から方面委員會を役場會議室に召集協議の結果同町に社會事業助成會を組織する事に決定した。

即ち助成會成立後は全町民から會員を募集して救済資金を造成し、當り第一回の社會事業として舊歲末に際し細民救済に乗り出す筈で各方面から喜ばれてゐる。

松田君入營

町松田一君は十九日午前九時平驛發步兵第二十九聯隊第五中隊に入營する。

成人教育

二十一日から 郡下男女青年團を始め中堅農民等の成人教育講座は二十一日より四日間文部省主催で植田校に開かれるが講師は本縣末原學務部長、長瀬教育課長、高井視學官その他數氏で科目は國民精神、日本史、道徳、實務、政治經濟法律等である。

酌婦の自殺未遂 實父の死に傷心

カルモチンを嘔下して

内郷村宮字町田磐城炭坑坑夫長ツエは前借五百圓で東京の魔窟屋居住廣瀬久光妹ミツエ(三三)玉の井に酌婦として住み込んで十七日午後四時頃自宅内でカたるが數日前實父が危篤の爲めルモチン三十錠を嘔下覺悟の自看護の爲め歸宅したが實父は遂に命を失つて了るのを兄久に死亡したので親孝行なミツエが發見附近の醫師を招いて嘔は前途を極度に悲觀二度の勤め急手當を加へたので幸いに一命が嫌になつたので遂に覺悟の自は取り止めた、自殺の原因はミツエを企たものと判明した。

坑夫一名慘死か 昨日古河第二斜坑落盤で

狼狽の余り奥部へ遁入

好間村大字小館古河炭坑坑夫金したが大落盤の爲めに救助は困難(二八)は昨日午前十時難で生死不明に陥つた。

頃外數名と共に第二斜坑に入坑採炭作業中突如大落盤と共に數十坪大の落盤あり各れも坑道に避難したが、金成のみは狼狽の極反對の奥部に逃げ込んだ爲め校剣道部では目下寒稽古中であるが二十日納會の筈で連日五

女學生の手記

小野崎 昭洋

寒風吹荒肌を刺す様な冷たい朝！七時二分の上り列車にて通學するわたし達は幸いものですわ、男の學生の爲なら床を出るとすぐ朝食をすまして家を出られますが、わたしは到底不可能ですわ、女であつて見れば……

青年分團長の 椅子争ひ

草野村青年團の北神谷分團では去十一月中定年退職した分團長猪狩賢氏の後任を廻つて紛糾を續けてゐるが、その内容は幹部會に於いては當然の順序として古市啓助氏を推薦したに對し反幹部派は吉田武氏を擁立此れに抗争した爲め古市派の幹部は紛

社員募集

平町田町

裁縫機械會社

本紙第五千九百六十四號第二面掲載伊東一家と自稱して福榮亭を脅迫し題する記事中武藤貞藏、鈴木清光の兩名は何れも伊東一家の者に非ざる旨釋明申込があつた。

釋明申込

本紙第五千九百六十四號第二面掲載伊東一家と自稱して福榮亭を脅迫し題する記事中武藤貞藏、鈴木清光の兩名は何れも伊東一家の者に非ざる旨釋明申込があつた。

賀状片々

(上) あきら生

昭和九年の元旦に私の机上に集つた。その中から一寸お目にかけませう。

大津市原里川 仰げば尊き 天津日嗣の皇子殿下御降誕に瑞氣天地に満々し歡天慶地俄に光明を拜し萬民齊しく千萬無疆の御慶を壽ぎ奉り歡喜の酔ひ未だ酔めやらぬ裡に一陽來復の新春を讀ふる我等の光榮と幸福とは何ものにも比すべくも非ず只管感激以て萬歳を高く唱しつゝ飛躍邁進の二五九四年を迎へ候。

佐渡に遊ぶ 松かさをつたふた落して御所路の松はすぐ立ちて水無月の空に御ささぎのおん玉石を濡らし降る霧の小雨のやゝに冷え來ぬ。越の國彌彦の山の杉むらは夏霞立ちてはのはのど見ゆ。早慶野球戦を見る 平樹、水谷響をならべ生還しサインは鳴る轟然たる中に。七萬觀衆總立となりて暮れ果てし球場に今殺氣漲る。 靈山の秋色を賞す 朝光はすでにあまねくひとつら 木草の紅葉燃えさるはなし。

各種膳寫取扱

上坂膳寫所

平町十五丁目
(呼出)電三六〇番

鈴木眼科醫院

平町研町 電話四三八番

二葉印刷所

平町仲町・電話一九三番

東和洋家具百貨大陳列大安賣會

十ヶ月掛

其他蓄音器 毛織物製品豊富

時代の要求 正月廿三日迄 夜間十時迄

跡場市魚元町平所場 東京丸和商會出張部

寒月に啼くシロの聲遠ひびくいでたちの異なる人に向ふシロの聲いつよりか嚴かになりぬ。歸り來し吾にまつはり追へどなほまつはるシロの愛しくもあるか。

新年言志

東京 田澤 景忠
又一つよはひ重ねししるしにと何か一ことなさんぞ思ふ。
福島 吾妻 乙矢
年ののは今朝降る雪の爐ごもりや たびし賀状に心行くがね。
三春 天野 多津雄

僕昭和八年 大田原 榎原に遊ぶ
那須野ゆく一筋路のはろかにてわが自動車はひた走るなり。
青葉またく蔽ひつくせし崖下の谷のはるかにたぎつ瀬を見つ。

日本共立生命保險會社

平出張所長 志賀寛

平町堂の前 磐城訓盲院隣

タクシーの御用命は 皆様の昭和へ!!!

「迅速、安全、親切」弊はタクシーのモットーであります 倍舊の御最良を御聲援願ひます。

平 驛 前

昭和タクシー

電話 三三四三番 六九五番

内科 小兒科 (入院應需)

花柳病科

藤沼醫院

平町紺屋町 電話平五〇七番

東神火災保險株式會社 磐城代理店

東京動産火災保險株式會社

河田鐵工場 梅吉

營業所 福島縣平町白銀町一 電話三三九番 二九五番

本支店 東京市日本橋通り三丁目 仙臺支店 仙臺市大町三丁目

かまぼく製造

折詰生造

た惣菜用 さつま揚 吉原揚

平町一丁目(電話一四一番)

支那そば

なべ焼

しるこ。ぞうに……(各々五錢)

配達迅速

平町字四丁目 生そば 十一屋

電話三七三番

貸切車の御用命の際は 是非電話六四〇番尼子夕夕

新車も購入致しました

平町二丁目 尼子夕夕

電話六四〇番

新年撞球大會

一、期日二月二十一日午前八時より

一、會場 平撞球場

一、會費 一圓(晝夕食付)

一、方法 三掛三人突連續四勝者を優勝候補とす

一、賞品 一等二十圓、二等十圓 以下十等迄

一、殊勳者賞 一等より五等迄

一、猛者賞 一等より五等迄

一、大旦那賞 一等五圓、以下五等迄 多數來會を希望す。

主催 磐城時報社 後援 平撞球場

小倉服賣出し

平町正札堂洋服店 電四三六

小學生 中學生 特製A 特製B

一圓六十圓 一圓六十圓 三圓五十圓

紺ヘル 三圓二十錢ヨリ

吉田眼科病院

平町紺屋町 電話六八番